

平成30年度 学校評価における自己評価及び学校関係者評価書

中井町立中村小学校

項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
教育目標	【保】学校は、年度初めに教育目標や方針をきちんと伝えている	28	100.0%	94.6%	73.7%	各教室に掲示しているほか、学校だよりやホームページ等でも学校目標や方針を伝えている。また、PTA総会でも保護者に伝え、昇降口の掲示板にも学校目標を掲示し、児童や保護者、地域の方が見れるようにしている。 「なかむらの子」は、低学年に比べて高学年の肯定率が高い。学校に在籍している年数が上がるほど、「なかむらの子」の言葉の意味について理解している。「なかむらの子」を児童に浸透するように努めてきた結果、クラス遊びなどに夢中になって遊んだり、根気強く学習や清掃活動に取り組んだりする児童が増えてきた。児童の評価は年々上昇傾向にある。逆に保護者の評価は低下傾向にあるが、依然9割の保護者が肯定している。	保護者の約9割が肯定しているので、引き続き学校だより、ホームページ等で教育目標が浸透するよう周知していく。 児童の「なかむらの子」については、低学年の評価が高学年の評価に比べて低い。低学年には、十分に理解されていないためだと思われる。こちらについても、引き続き、定期的に言葉の意味を確認し浸透させていく。また、目標が周知、理解されるだけでなく、達成できるように努めていく。	PTA総会・学校だより・ホームページや校内の掲示物など、手を尽くして伝えられている。ホームページは、見ると学校の様子がとてもよく分かるし、開示してくれている安心感がある。肯定率も充分高いが、「さらに」と言うならば、家庭訪問など、機会あるごとにPRしていくとよいのではないかと。
	【児】「なかむらの子」を知っている							
	【教】学校の教育目標・方針が児童や保護者に理解されるよう工夫している	29	100.0%	94.2%	85.6%			
		30	100.0%	89.7%	90.0%			
改善策		引き続き、学校だよりや学校のホームページによる情報発信に努め、PRの機会を増やして保護者の学校への関心を高めていく。						
項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
学校生活	【保】子どもは楽しく学校生活を送っている	28	100.0%	95.3%	92.2%	これまで、できた、わかったと達成感や満足感が得られるように、興味・関心を引き出す学習課題、場の設定、ICTの活用や地域の人材・素材を取り入れた体験的な学習などに取り組んできた。また、一人ひとりが活躍できるように、異学年交流を進め、すぎなっこ班での掃除や遊び、ハイキング、交流給食、各委員会を中心とした集会なども行ってきた。 しかし、悪口や暴力などのいじめや、生活リズムの乱れからの不登校などは無くならず、高学年になるほど友だち関係や学習での悩みを抱える児童が多くなっている。 保護者、児童とも肯定率が年々低下している。特に、児童は高学年の肯定率が低く、保護者においても高学年の保護者の肯定率が低い。	はじめを付け、メリハリのある学校生活を送ることができるよう、指導に努める。特に、学校生活の大半を占める授業を工夫改善していく。また、道徳科の授業を中心にして「命の大切さ」を扱い、道徳的判断力、実践力に結びつくような取組みをしていく。さらに、異学年交流や各委員会を中心とした集会なども引き続き行い、自己有用感の育成やふれあい教育を進め、児童が安心して生活できるような居場所づくりに努める。 いじめや不登校などの問題に対しては、引き続き全職員で対応していく。そのために職員で情報を共有し合い、児童の言動を注意深く見守り、早期の発見と早期の対応に努める。また、情報を共有し保護者・地域にも知らせ、協力を求めていく。外部機関とも連携し、悩みを抱えている児童や保護者の相談にのっていただく。	高学年になると、友だちづきあいや学習の難しさがあがり、思春期を迎える年頃ということもある。その時その時の気分の上下が大きいので、評価にも影響すると考えられる。結果を見ると、肯定率は高いので、多少の変動は問題視しなくてもよいのではないかと。 男児は思春期になると家で話さなくなるし、女兒もよかったことは話さず、困っていることはなかなか話さない。親子のコミュニケーションを大切にしていきたい。話しやすい関係を、大人（保護者や教師）がつくるようにしていく。
	【児】学校は楽しい							
	【教】子どもたちが学校生活に魅力を持つようそれぞれの教育活動を工夫して取り組んでいる	29	100.0%	94.9%	89.2%			
		30	100.0%	90.8%	86.7%			
改善策		学校生活の充実に向け、生活・学習の両面から取り組みを進め、特に学校生活の大半を占める授業を工夫改善していく。道徳的判断力、実践力に結びつくような取り組みや、自己有用感の育成を図り、児童が安心して生活できるような居場所づくりに務める。 いじめや不登校などの問題に対しては、引き続き全職員で対応していく。情報を共有し合い、児童の言動を注意深く見守り、早期の発見と早期の対応に努め、保護者・地域にも協力を求めていく。外部機関とも連携し、悩みを抱えている児童や保護者の相談にのっていただく。						

項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
基本的 生活習慣	【児】「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけている	28			79.2%	<p>基本的な生活習慣については、生活実態調査や6年生が受けている全国学力学習状況調査の質問紙の中にも取り上げられている。学力だけでなく体力の面からも関係が指摘されているので、学級活動や保健学習などで指導したり、長期の休みに入る前にも、しおり等で生活リズムの乱れについて話をしたりしている。</p> <p>また、毎月、保健室から出される「保健だより」においても、「早寝、早起き、朝ご飯」を呼びかけている。</p> <p>肯定率が年々低下傾向にあり、高学年だけでなく低学年においても、肯定率が低く7割を切っているため、学校では危機感を持って取組みを進めることが必要だと感じている。</p>	<p>引き続き、学級活動や保健学習などで指導したり、長期の休みに入る前にも、しおり等で生活リズムについて話をしたりしていく。</p> <p>また、毎月、保健室から出される「保健だより」においても、「早寝、早起き、朝ご飯」を呼びかけていく。さらに、学校保健委員会で講師を招いて講演会を開催したり学級懇談会で話題にし話題にして改善を図る。原因の1つとされているスマホやゲームなどの扱いについても保護者の協力を得ながら進めていく。</p>	<p>家庭の問題であるが、学校生活への影響は大きい。</p> <p>スマホの所持率が上がっているが、使い方は後回しになっている。ユーチューブの視聴やラインのやりとりも生活パターンの乱れにつながっている。「何時まで」などのルールを保護者も共有しているといえる。子どもが小さいうちから持たせている家もあるので、できるだけ低年齢のうち、スマホ教室などに親子で参加する機会をつくり、怖さについても学ぶ必要がある。親もゲームで育った世代で、親子でゲームに興じている場合もあるため、保護者への啓発も必要である。家庭により事情はあるが、親より先に子どもを寝かせるようにしたい。</p>
		29			70.6%			
		30			67.6%			
改善策		引き続き、学級活動や保健学習などで指導したり、長期の休みに入る前にも、しおり等で生活リズムについて話をしたりしていく。毎月、保健室から出される「保健だより」においても、「早寝、早起き、朝ご飯」を呼びかけていく。さらに、学校保健委員会で講師を招いて講演会を開催したり学級懇談会で話題にして改善を図る。原因の1つとされているスマホやゲームなどの扱いについても保護者の協力を得ながら進めていく。親子で学ぶ機会についても検討する。						
項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
開かれた 学校	<p>【保】学校は、学校公開や学校・学級通信などにより、子どもたちの生活の様子や教育活動の情報をよく伝えている</p> <p>【児】先生方は、家庭に学校の様子をよく知らせている</p> <p>【教】学校公開や学校・学級通信、ホームページ等で学校教育に対する理解を深めている</p>	28	100.0%	95.9%	93.3%	<p>保護者の要望により、今年度は4回の授業参観を実施した。また運動会、給食試食会、学校保健委員会、持久走記録会など様々な形で学校公開を行った。</p> <p>本校の教育活動や児童の様子については、学校だよりをはじめ、学級通信、ホームページ等で保護者、地域に伝えた。学級通信については、写真や児童の言葉を載せるなど、各学級で工夫を凝らし分かりやすい内容になっている。</p> <p>家庭訪問や年2回の教育相談、3回の懇談会を通して、情報を伝え合うことを大切にしながら信頼関係の構築に努めてきた。</p> <p>評価は昨年に比べ下がっているものの、保護者・児童から引き続き高い肯定率の評価を得ている。</p>	<p>授業参観や学校公開日の回数については、保護者の要望もあり6回を4回に減らしたが、保護者によっては参観できる回数が減ったとか、同じ曜日にしないで欲しいというご意見もあるので、回数や曜日については検討していく。</p> <p>また、授業参観、学校公開、学校行事以外でも常に参観できることを周知して、さらに、学習ボランティア等の受け入れを積極的に進め、保護者や地域の方が学習に参加できる体制を充実させる。</p> <p>学校からの情報発信については、今後も学校だよりや学級通信、ホームページ等で様子が伝わるように努めていく。</p>	<p>「今後の改善に向けて」の内容のとおりでよい。参観日を7月に1回増やすことについても、賛成である。</p>
		29	100.0%	98.3%	97.8%			
		30	100.0%	91.4%	91.0%			
改善策		昨年度の保護者からのアンケート等で授業参観が多いという声が多かったことを受け、今年度は年6回から年4回に授業参観を少なくした。しかし、今年度の保護者のアンケートには、授業参観が少ないとの声があり、一部の教職員からも学級懇談会で保護者に話をする場がほしいとの声が上がった。授業参観の回数を減らしたことが、肯定率にも影響していると考えられ、来年度は年5回の授業参観を行うことを検討する。						

項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
学習意欲	【保】子どもは学校の勉強を理解し、学習へのやる気が見られる	28	100.0%	62.5%	94.8%	学習意欲に関して、教職員100%はここ3年間変わらない。保護者、児童については、ともに肯定率が上がっている。保護者は0.3ポイント、児童は2ポイントの上昇である。これは、校内研究において、国語を中心に「子どもが学びを自覚し、高め合える授業をめざして」というテーマで取り組んできた成果とも考えられる。校内研究会では、教材研究や研究授業を行い、よりよい授業づくりを追究した。また、少人数指導、T・Tなど個に応じた支援も効果があったと考えられ、学習の定着度につながる大きな要因であった。	校内研究による指導法の研究や授業改善については、成果が上がっていると考えられるので、引き続き行っていきたい。また、校内研のサブテーマである「振り返り活動をいかした指導の工夫」については、他教科にもその考えを波及させて、指導の改善を行っていきたい。学習に対してやる気があると答えている児童が9割強いる中、意欲が持てずにいる児童もいる。対応を考えていく必要がある。授業改善のほか、学習支援者の活用方法も考えていきたい。子どもが「楽しく」学習し「分かる」喜びを味わえることと、「やる気」にさせるための手立て・関わりが必要である。ポイントアップは、授業に対しての意欲だけでなく、学習が身についた「習熟度」においても効果があったためと考えられるので、手立てを講じた後も、定着を見取り、それを丁寧に家	児童の肯定率の高さは、振り返りを通して児童が自分の学習を捉えるだけでなく、教師は個々の児童の学習の状況を把握し、授業に反映させている結果と考えられる。今年度行っている学びの自覚のための振り返り活動は、次年度もさらに研究を進め、意欲につなげてほしい。少人数指導、T・T、個別指導などについても、続けていきたい。
	【見】先生の授業は分かりやすく、やる気が出る							
	【教】研究の取組や指導法の改善を通して子どもの学習意欲が高まる授業を工夫している	30	100.0%	73.0%	95.0%			
改善策		今後も引き続き、校内研究を通して振り返りを生かした改善を進め、教職員の授業力向上に努めていく。また、個に応じた指導のあり方を検討し、学習支援者の効果的な配置・活用を進める。 保護者の肯定率が上がったとはいえ70%台前半であることは課題である。児童の肯定率95.0%に近づけられるように、定着を見取り、それを丁寧に家庭に伝えていく。家庭学習への取り組みについて、児童の意欲向上も図っていきたい。						
項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
評価	【保】学校における子どもの能力や努力の評価は適切である	28	100.0%	88.8%	91.7%	評価について、教職員の肯定率は100%となっている。これは、日常の評価において客観的に適切に処理できていると言える。あゆみによる評価以外にも、授業での評価、ノート、提出物に対してコメントを書くなど、丁寧に見取っている。しかし、児童・保護者はともに前年度を下回っている。特に保護者においては2.7ポイント下がっており、評価に対する理解が不十分な面があるようである。あゆみについては、学級懇談会で評価の仕方、見方などの説明を行っているが、理解が得られていないところもある。児童も2.5ポイント下がっている。日々の教育活動の中で、教師からできたこと、努力している様子等、認められることを望んでいることがわかる。	今後も、具体的な資料をきちんと整理し、それに対する適切な評価をしていく。評価基準の見直しも行き、教材や児童の実態に合ったものかどうか検討する必要がある。あゆみについては、より丁寧な説明が必要である。保護者の評価についての理解が深められるよう、懇談会等を利用して、評価の仕方を丁寧に説明していく。また、児童の活動やその成果が伝わるよう、学校公開や学級通信などで家庭に積極的に知らせる。一人ひとりが自己肯定感、自己有用感もてるような評価をしているか、児童へ日々の言葉がけがきちんとできているか見直すことが大切なことだと考える。	評価規準により、適切な評価に努められている。1年生については、初めての保護者には分からないこともあるので、説明があるとよい。
	【見】先生は、できるようになったことや頑張ったことを認めてくれる							
	【教】評価規準と適切な資料に基づいた客観性のある成績評価ができています	30	100.0%	83.9%	89.4%			
改善策		今後も、具体的な資料を整理し、適切な評価を行う。一人ひとりが自己肯定感、自己有用感もてるような評価を行っていくとともに、児童の活動やその成果が伝わるよう、学校公開や学級通信などで家庭に積極的に知らせる。1年生の評価については、説明不足の点もあったので、9月に懇談会をもち、伝えていくようにする。						

項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
読書	【児】学校や家で読書をしている 【教】児童に読書の習慣がつくよう指導している	28				読書に関して、教職員の肯定率は9割を超えている。朝読書の推進や読み聞かせなどの活動を取り入れて、読書を身近なものにしようとしている。様々なジャンルの本の紹介なども図書ボランティアの方や教師の交換読み聞かせなどを通して行っているし、授業の中では、調べ学習などで図書資料を利用する機会が多い。また、図書ボランティアの方による図書室の整備により、図書室が子どもたちにとってとても親しみやすい所になっている。 児童は、肯定率が7割弱と読書活動は停滞気味である。朝読書はしているものの、図書室にある本を知らないこと、学級文庫として置いてあるものをその時だけ選んで読むなど、読書がその子にとって継続したものになっていないこともある。特に、家では本に触れる機会・時間が少	読書活動については、今後も継続して取り組んでいきたい。読み聞かせを通して、様々なジャンルの本を紹介することで本のおもしろさを伝えることはできている。児童が興味関心をもてる内容の選択をしていくことも本好きにする重要なポイントとなるので、選書の参考となる情報交換をしていきたい。 図書委員会による読み聞かせ、読書週間等の取り組みは今後も継続して行い、図書室へ足が向くようにしていく。家庭での読書活動については、高学年では、習い事、テレビ、携帯など生活時間の見直しをしないと読書の時間がなかなか取れない現状もあるようだ。読書が行われるような環境作りなど保護者の意識改革も必要である。	読書タイムは、家から本を持って行くため、親子で書店に行ったり、友だちの読んでいた本から影響を受けて読書が広がることにつながっている。読書は成長しても続いていくので、きっかけ作りとして、読書タイムや紹介活動を続けていくことは大切にしていきたい。学習センターにも多くの本があるので、活用を進めたい。
		29						
		30	92.3%		66.1%			
改善策		読書タイムを継続し読書の時間を確保するとともに、紹介活動の充実、学習センターの利用を進めていく。読書タイムの直前に本をえらぶのではなく、予め用意しておけるように指導する。						
項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
説明学習	【保】子どもと共に説明学習に取り組んでいる 【児】説明学習に取り組んでいる 【教】子どもが説明学習に取り組むための指導を適切に行っている	28	100.0%	74.7%	92.3%	説明学習の取り組みについては、本校の家庭学習としての取り組みとなっているため、全児童が行っているが、教職員の肯定率は前年より7.7ポイント下がっている。児童がいろいろな教科に取り組めるように、授業の中で説明学習について課題を設定したりするなどの指導は前年同様行っているが、毎日の学習であるため、継続的に取り組んで来れなかったことも考えられる。保護者については、4.2ポイントと上昇している。家庭への啓発活動を行ってきた結果だと言える。学習内容の理解を保護者が理解できることや親子のコミュニケーションにつながる効果が大きいと言えるが、「説明学習の意味がわからない」といった意見もある。児童については、2ポイント下がってはいるが、家庭学習としては定着している	説明学習については、今後も家庭学習の一環として取り組んでいきたい。その日の学習を自分の言葉で説明することによって、理解がより深まったり、家庭学習につながったりすることもある。また、保護者には子どもの理解がわかり学習のサポートにもつながる。しかし、保護者の中には、説明学習に疑問をもっている方もいる。そのため、これからも継続していくためには、年度始めの啓発活動を十分に行う必要がある。説明学習をすることの意義や効果を、学校だより、学級懇談会、学級通信などで丁寧に説明していく。また、児童についても、説明学習を進めていく中で、どんな取り組みをしているのかを、朝の時間等を使って紹介しあったり、バージョンアップできる手立てを指導したりしていく。カードのコメント記述などからよい取り組みを認め、毎日の意欲につなげていきたい。そして、子どもたちの様子の変化や学級通信等を通	説明学習の意義は理解できるが、名称がかたく、難しく捉えてしまいがちである。同じ内容でも、平易な言葉にすることで、わかりやすく取り組みやすくなる。低学年の児童は、保護者が声をかけてうまく引き出さないと話せないのでは、発達段階に応じて、マニュアル的なもの（やり方シート）があってもよいのではないか。また、1年生の最初は、2年生が見本を示して1年生に教えてあげるのもよいのではないか。家庭での工夫の仕方の1つとして、ホワイトボードを使った先生ごっこのような形での説明も楽しくできる。
		29	100.0%	74.4%	90.9%			
		30	92.3%	78.6%	88.9%			
改善策		年度初めに、説明学習導入の原点に戻り、児童に説明学習の仕方について十分確認を行うとともに、下校前に今日はどのように説明学習を進めるのか、翌日の朝の会で、昨日家庭で行った説明学習を実際に行うなど、児童の共有の場を作ることで、説明学習の効果を学級で高めていく工夫をしていきたい。その日々の繰り返し、児童の学習意欲向上や学びの自覚、さらには家庭学習の習慣にもつながると考える。						

項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
いじめ・不登校	<p>【保】 学校は、いじめや不登校などに対して真剣に向き合っている</p> <p>【児】 先生は、いじめやけんかに対して、きちんと対応してくれる</p> <p>【教】 いじめや不登校の未然防止に一丸となって組織的に取り組んでいる</p>	28	100.0%	78.1%	93.8%	<p>教職員の肯定率については、昨年度より7.6ポイント下がっているが、学級の状況については、職員会議などで情報の共有を図っており、いじめに関しては、毎月行っているミニアンケートにより、各クラスごとにいじめの早期発見、対応を行っている。保護者の肯定率については、昨年度より1.2ポイント下がっているが、8割近くの家庭は肯定的に捉えている。また、同様に児童についても3年続けて9割以上が肯定的に捉えている。これらのことから、いじめミニアンケートをはじめ、各学級担当が児童理解に努めていることが児童や保護者に理解されていると捉えることができる。また、児童会を中心としたいじめ防止に関する取り組みも、児童への指導に生きていると考えられる。</p>	<p>いじめ問題に関して、今後も各学級でのいじめや問題行動に関する状況などを、情報交換を積極的に行い、職員が連携していく。児童や保護者に関しては、引き続きいじめミニアンケートを行い、問題の早期発見、早期対応に生かしていく。ミニアンケートで得られた情報や、学級担任の対応、その他状況などは児童指導担当が取りまとめ、職員に周知を行う。今年度は児童会を中心に「ピンクシャツデー」などの活動を行ってきた。それらの活動についての意義を児童が振り返ることができる機会を持ち、同時に家庭や地域も連携して活動できるように取り組みを行っていききたい。不登校問題については、必要に応じてスクールカウンセラーと相談をしながら、個々の児童に合った支援を継続していく。</p>	<p>体が小さいなど、人より劣っているところを指摘されると本人は傷つくが、言った方は人を傷つけてしまっていることに気付かないことが多い。児童の意識を高めていく必要がある。</p> <p>保健室利用した日などに、帰宅後どうかなどと連絡をもらうことがあるが、担任と家庭とのきめ細かなやりとりは、保護者の安心感につながる。「よく見てもらっている」「気にかけてもらっている」と感じられるので、これからも続けてほしい。</p>
		29	100.0%	80.8%	92.4%			
		30	92.3%	78.0%	93.3%			
改善策		<p>今年度は児童の意識を高めるため、朝会での話や児童会の新たな取り組みも行われ、効果が少しずつあらわれてきている。いじめ防止に向けての取り組みは、アンケートなどの事後の状況把握と取組をきめ細やかにを行い、今年の取り組みに工夫を加えながら進める。不登校については、今後はスクールカウンセラーにもつないで、時間をかけて対応していく。</p>						
項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
あいさつ	<p>【保】 子どもたちは家庭や地域であいさつがよくできている</p> <p>【児】 友だちや先生、地域の人たちにあいさつをしている</p> <p>【教】 教 子どもたちが自分から進んであいさつができるよう指導を適切に行っている</p>	28	100.0%	79.5%	88.1%	<p>あいさつに関しては、現在児童会を中心にあいさつ運動を行っている。各学年で曜日ごとに分担をしているため、児童にとっては積極的にあいさつに関わっているという自覚があるのだと考えられる。その点で、児童の肯定率は過去3年間で、徐々に上昇している。しかし、教職員の肯定率が昨年度に比べて8ポイント近く下がっている。また、保護者の肯定率に関しても、この3年間は7割ほどに留まっている。あいさつ運動などにより、あいさつは活発になってきているが、どちらかという受け身である面が多く、「自分から進んであいさつをする」「家庭や地域であいさつをする」点について、まだ課題が残っていると考えられる。</p>	<p>道徳や学活の学習等を通して、また日常のやりとりの中でよさを感じられるようにすることによって、あいさつへの児童の意識を高め、実践に結び付くようにしていく。</p> <p>自分から元気よくあいさつできるようにしていくため、児童会のあいさつ運動は継続し、さらに、あいさつ運動のやり方等を児童と検討して、自らの意思であいさつできるよう工夫していく。また、授業の始めと終わりのあいさつなど、日常生活の中で一つひとつのあいさつにも取り組んでいく。家庭でのあいさつについても保護者に呼びかけていく。</p>	<p>朝の登校の様子を見ると、児童は、大人からあいさつをすればあいさつをするという状況である。児童が自分から、元気よく、地域の方にもあいさつをすることが求められている。</p> <p>あいさつについては、親が範を示す必要があり、親ができれば子どももできる。声を掛けられなくても自分からできるように、学校でも地道に指導を続けていってほしい。</p>
		29	92.9%	75.0%	90.4%			
		30	84.6%	74.0%	91.1%			
改善策		<p>あいさつは、昨年度も反省点の一つとして挙げられた。今後は、児童会のあいさつ運動の方法にも少し工夫を加えたり、いろいろな場面で児童の意識を高めたりするよう努力をしていく。</p>						

項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
英語活動	【保】子どもは学校で行っている英語活動を楽しみにしている 【児】英語活動の授業は楽しい 【教】外国語活動では、ALTやボランティアの協力体制のもと積極的に授業を行っている	28	91.7%	72.2%	77.8%	英語活動については、教師の肯定率はここ3年間、9割以上が肯定的に捉えている。ALTやボランティアと連携を図りながら、楽しく学べる英語活動について、日々実践を繰り返している結果だと考えられる。保護者については、約7割前後で推移している。英語活動については、説明学習などを通して保護者に伝わってはいるが、具体的な学習内容については十分に理解されていない面があると考えられる。児童に関しては、昨年度より2ポイント近く下がってはいるが、8割以上の肯定率で推移しており、歌やゲーム、体を使った活動などにより、楽しく学べる英語活動になっている。	今後も引き続き、ALTや英語教育コーディネーターと密に連携をとり、協力して英語活動を進めていく。楽しく学べる英語活動の推進と同時に、系統性を大事にしていく。家庭に対して、学習内容について積極的に伝え、英語活動への理解を深めていく。また、説明学習に英語活動を取り入れるなど、保護者と一体となって学んでいけるような取り組みを推進していく。	明るく楽しい雰囲気での授業が進められている。歌やゲームを取り入れ、実際に英語を使う場面に無理なく臨めるよう、手順を踏んで指導されている。高学年ではやや肯定率が下がっているが、それでも高いので、今後も担任とALTが協力して取り組みを続け、いっそうの充実を図ってほしい。
		29	100.0%	69.1%	84.0%			
		30	92.3%	69.0%	81.7%			
改善策		今後もALTや英語教育コーディネーターと密に連携をとり、協力して英語活動を進めていく。楽しく学べる英語活動の推進と同時に、系統性を大事にしていく。家庭に対して、学習内容について積極的に伝え、英語活動への理解を深めていく。また、説明学習に英語活動を取り入れるなど、保護者と一体となって学んでいけるような取り組みを推進していく。						
項目	評価項目	年度	肯定率			取組・分析	今後の改善に向けて	評価助言
			教職員	保護者	児童			
清掃	【児】学校がきれいになるように、みんなで協力して掃除をしている 【教】清掃活動の指導はゆきとどいている	28	69.2%		86.5%	児童の清掃活動への肯定率については、昨年に続き9割以上が肯定的に捉えており、児童は積極的に清掃をしているという意識がある。清掃については、すぎなっこ班で行っている。高学年の班長を中心として、声を掛け合いながら清掃に取り組んでいる姿が見られる。教職員の肯定率については、昨年度と同様に8割程度にとどまっている。清掃担当を中心に、清掃手順を明確化させることなどにより、児童が清掃しやすく、また清掃場所をよりきれいにするような取り組みを実践している。ただし、各すぎなっこ班の担当する各場所を回りながら、細かく指導を行えない実情があることもうかがえる。	すぎなっこ班での清掃活動については、児童が自ら清掃に取り組もうとする姿勢つくりのために、今後も継続する。教職員は各掃除場に掲示されている掃除の手順を児童と一緒に確認しながら掃除をすることにより、教師と児童が共通理解の元、よりよい清掃活動につなげる。また、学校をきれいにするこの意義について、学級活動で話し合ったり、日頃から教室環境を整えたりすることにより、自分たちの教室や学校をきれいにしていく意識を育めるようにする。それらの活動を定期的に振り返り、認める機会を多くすることで、自発的に掃除に取り組む姿勢を育んでいく。	すぎなっこ班での清掃活動は、上の学年の児童の姿を見て自然に学ぶ点で、児童が自ら清掃に取り組もうとする姿勢つくりのために効果的だと感じられる。 日常の清掃活動以外に、集会活動で高学年の委員会の指導が入るのもとてもよい取り組みだと思う。実際にやってみせることで、わかりやすく、児童の意識も高まる。
		29	78.6%		93.5%			
		30	78.6%		90.5%			
改善策		すぎなっこ班での清掃活動を今後も継続する。教職員は各掃除場で指導にあたり、よりよい清掃活動につなげる。日頃から教室環境を整えたり、生活環境について学級で話し合ったりすることにより、自分たちの教室や学校をきれいにしていく意識を高め、それらの活動を定期的に振り返り、認める機会を多くすることで、自発的に掃除に取り組む姿勢を育んでいく。						